

第617回番組審議会報告

2017年4月4日開催

■出席委員

佐藤卓己委員長 佐藤友美子副委員長 今井美樹委員 太平信恵委員
津村記久子委員 東野博昭委員 細見良行委員 丸山雅也委員

■毎日放送出席者

梅本専務 木田取締役 浜田取締役 宮田取締役 虫明ラジオ局長
竹田編成局長 大牟田コンプライアンス室長兼番組審議会事務局長

◆議題

1. 新任委員の紹介と委員長・副委員長の選出

前年度の委員のうち櫻井委員長が退任されたあと、今年度新たに今井委員と太平委員に委嘱し、委員総数は9人となった。委員長に佐藤卓己委員、副委員長に佐藤友美子委員が選出された。

2. 報告事項

- ①ラジオ・テレビの4月改編の概要について、ラジオ局長と編成局長がそれぞれ報告した。
- ②放送番組の種別の公表制度に基づき、平成28年度下期6か月分の番組種別ごとの放送時間を編成局長が報告した。あわせて同期間のCM総量及び4月以降の基本番組表についても報告した。

◆議事の概要

2-① ラジオ・テレビの4月改編について

ラジオの今回の改編率は18.5%、自社制作率は97.9%。野球中継は今シーズンもテレビ、GAORAとの統一キャンペーン「With Tigers」を掲げて他局との差別化を図る。また、SNSやネットで話題になるラジオを目指して深夜帯番組を編成し、ワイドFMなどラジオを楽しむ環境の変化にも対応していく。

テレビの改編の基本方針は「家族で楽しめる番組づくり」をいっそう深めること。特に、家族団らんの時間である日曜の夜を強化するため、入り口となる夕方にMBS発の全国ネット新バラエティ番組をスタートさせる。加えてこれまで日曜夕方に編成していたアニメ枠を土曜朝に移行させ、TBSとともに将来のJNNファンを育てるべく1時間のアニメゾーンに。また、TBS制作のドラマをはじめ、視聴率が上向きになっている流れを

維持するために、月～金の帯番組を強化。特に『Nスタ』はキャスター陣をフレッシュな顔ぶれに若返らせ、女性層などの支持の獲得を目指す。改編率は小さく、総放送時間で7.8%、G帯8.7%、P帯13.7%。

2-② 放送番組の種別の報告について

去年10月から今年3月まで、報道番組は合計1万5474分（総放送時間の25.7%）、教育7721分（同12.8%）、教養1万4071分（同23.4%）、娯楽1万9392分（同32.2%）、通販3077分（同5.1%）、その他503分（0.8%）。また、この半期のCM放送実績は1万380分30秒で、総放送時間に対する割合は17.2%。

【各委員の意見から】

一日曜夕方の新バラエティ番組について

- “家族で楽しめる”ことを目指すバラエティをこの時間帯で編成するのは新鮮でチャレンジングな試みだ。期待したい。

一土曜朝のアニメゾーンについて

- 小学校低学年といった小さい子ども向けのアニメを手がけるのは久しぶりということだが、放送開始が朝6時半というのは早過ぎるのではないか。

一今回の改編率は低いが、継続する番組の強化について

- 改編率が低いのはレギュラー番組が好調だからこそだが、一方でJNN系列の課題である若い視聴者層を獲得するために、今後も番組タイトルが変わらないまでも内容の手直し、強化をしていくとのこと。期待したい。

一ワイドFMについて

- 去年3月にワイドFM（FM補完放送）がスタートしたものの、思ったほどリスナーの拡大に結びついていないとのことだが、FMはどちらかといえばじっくり聞き込むというよりも“ながら聴取”向き。もちろんFMの普及は一朝一夕にはできないだろうが、MBSラジオとしてAM、FMの特性をどういかしていくかが課題だ。